

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 2 0 0 8 年 2 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 2 月 2 9 日

日 本 商 工 会 議 所

## < 結果のポイント >

2月の全産業合計の業況は、大幅に悪化した1月と同水準となり、依然として厳しい状況。(1月 47.9 2月 47.5)

全産業合計の仕入単価は、12カ月連続で上昇して 49.8 となり、調査開始以来最悪の水準を更新し続けている。(仕入単価 D I 値 = 下落の回答割合 - 上昇の回答割合)

引き続き、原油・原材料価格の高騰による採算の悪化、建築確認の遅延による建設業界のみならず家具業界など幅広い業界への悪影響、燃料費や食料品価格の高騰等に伴う消費の低迷による売上減少、などを訴える声が多く聞かれる。

また、今月は新たに、中国製冷凍餃子問題の影響に関する声が多く寄せられた。同問題に伴い、中国製食品のみならず冷凍食品全般についての売上減少が指摘されている。

L O B O 調査は、毎月の地域における景気動向を調査するものであり、当該月の景況に係る調査結果を最も早く集計・公表しております。

調査期間：2008年2月18日～22日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合などにヒアリング

(内訳)建設業 378 製造業 616 卸売業 235

小売業 736 サービス業 613

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況(DI値を集計)

および、業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算:(好転) - (悪化) 売上:(増加) - (減少)

【本件担当】産業政策部 TEL:03-3283-7836

E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

## 【2008年2月調査結果の概要】

### **業況は大幅に悪化した前月と同水準、仕入単価の高騰によりD Iは最悪値を更新**

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、大幅に悪化した1月（47.9）から、ほぼ横ばいとなった。（47.5：これは4年8カ月ぶりの水準）

産業別の業況D Iは、卸売でマイナス幅が拡大し、建設、製造、小売でほぼ横ばい、サービスでは縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、百貨店など一部に好調（天候から防寒衣料の売行き好調等）、先行き期待という声があるものの、原材料価格の高騰による採算の悪化、消費の低迷による売上減少などを訴える声が多く聞かれる。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

#### **【建設業】**

- ・「公共工事の減少により、厳しい状況が続いている」（一般工事業）
  - ・「建築資材、運搬費用等の値上がりにより、採算が悪化」（一般工事業）
- といった声があるほか、
- ・「建築基準法改正の影響による認可の遅れで、受注件数・売上が大幅に減少」（建築工事業）など、依然として建築確認の遅延による影響の声が寄せられている。

#### **【製造業】**

- ・「大豆、小麦粉等の値上げが収益を大きく圧迫」（食料品製造業）
  - ・「住宅着工件数の大幅減と輸送コスト等の上昇は、家具業界にも大きな影響を及ぼしている」（家具製造業）
  - ・「3月、4月と鋼材の値上げ通知がきている」（金属製品製造業）
- といった窮状を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には、
- ・「自動車関連を中心に、受注は順調に推移」（自動車・附属品製造業）
- など、輸出関連の企業からは好調の声も聞かれる。

#### **【卸売業】**

- ・「原油価格の高騰により、物流コストが増加」（各種商品卸売業）
- ・「漁獲量の減少、魚価の高騰と厳しい状況が続いている」（農畜産水産物卸売業）
- ・「卸先である飲食店の売上悪化の影響により、採算は厳しい状況」（農畜産水産物卸売業）

#### **【小売業】**

- ・「高額商品の買い控えなど、消費の低迷により厳しい状況」（百貨店）
- ・「ミセス向けの衣料品が不振」（百貨店）
- ・「大型店との競争に加え、原油価格高騰の影響により消費者の購買意欲が低下し、売上が悪化」（商店街）などの声が寄せられている。

また、中国製冷凍餃子問題の影響に関する声も多く寄せられた。

- ・「食品の安心・安全への消費者の関心が高く、中国製食品、冷凍食品の売上が減少」（百貨店）
- ・「冷凍食品は3～4割売上減少」（百貨店）

などマイナスの影響を訴える声が多かったものの、中には、

- ・「国産野菜への移行が目立つ」（百貨店）
- ・「ひき肉や餃子の皮の販売が増えた」といった声も見られた。

なお、寒さの影響で

- ・「防寒衣料等の衣料品が好調であった」という声も複数見られる。

## 【サービス業】

- ・「飲料品の値上げが予定されているが、価格転嫁は難しく、採算の悪化となる見込み」(一般飲食店)
- ・「悪天候が続き、消費が低迷」(飲食店)
- ・「来店回数が極端に減少している」(理容業)などの声が寄せられている。

全産業合計の売上DIは、マイナス幅が4.4ポイント縮小して35.4となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅はサービスで拡大したものの、他の4業種では縮小した。

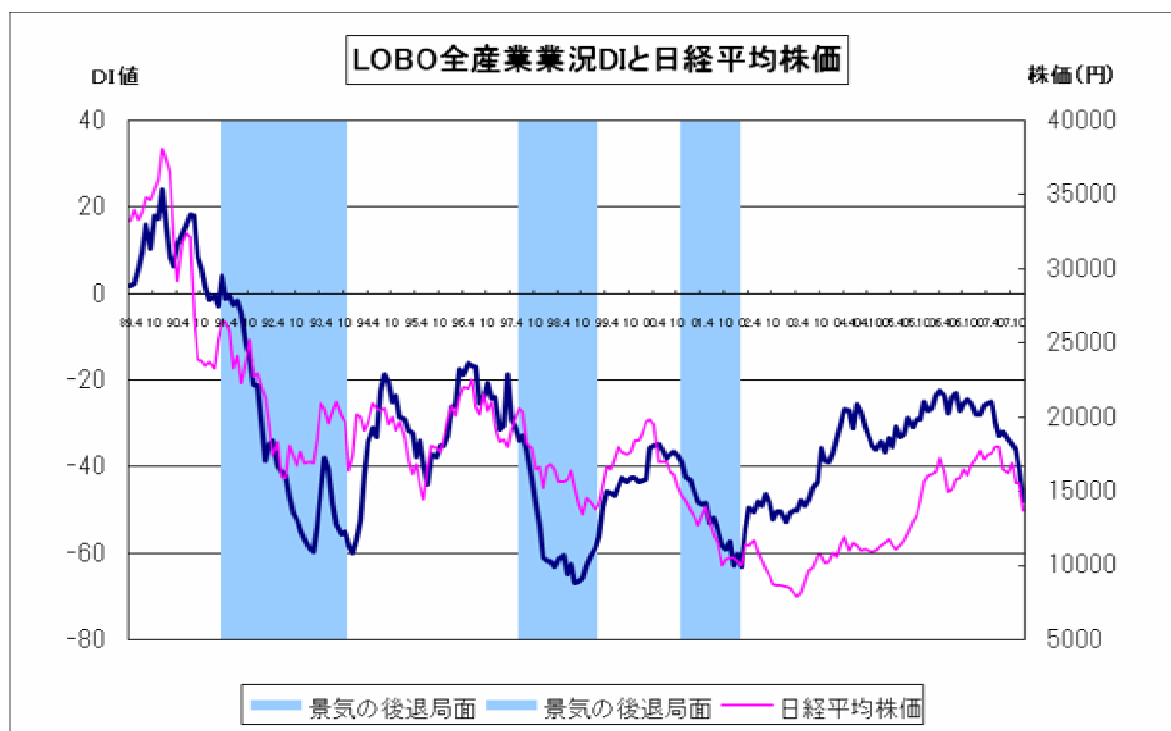
全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.2ポイント縮小して44.9となり、6カ月ぶりにわずかながら縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で拡大したものの、他の4業種では縮小した。

全産業合計の資金繰りDIは、悪化が2.5ポイント強まって31.0となり、6カ月連続の悪化となった。産業別にみると、DI値は製造でほぼ横ばいだったものの、他の業種すべてで悪化した。

全産業合計の仕入単価は、12カ月連続で上昇を示し、仕入単価DI(下落-上昇)は49.8となり、調査開始以来最悪の水準を更新している。産業別にみると、仕入単価の上昇感は建設、製造で弱まったものの、他の3業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰感が0.1ポイント強まって4.1となり、4カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値は小売で不足感が強まったものの、製造、卸売、サービスでほぼ横ばい、建設で過剰感が強まった。

向こう3カ月(3月~5月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が41.6と、昨年同時期の先行き見通し(20.0)に比べて大きく悪化している。産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、約15ポイント以上の悪化となっている。



【業況についての判断】

2月の全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、大幅に悪化した1月（47.9）からマイナス幅が0.4ポイント縮小と、ほぼ横ばいとなった。（47.5：これは4年8カ月ぶりの水準）

産業別にみると、卸売でマイナス幅が拡大したものの、建設、製造、小売ではほぼ横ばい、サービスでは縮小した。

向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が41.6と、昨年同時期の先行き見通し（20.0）に比べて20ポイント以上も悪化している。

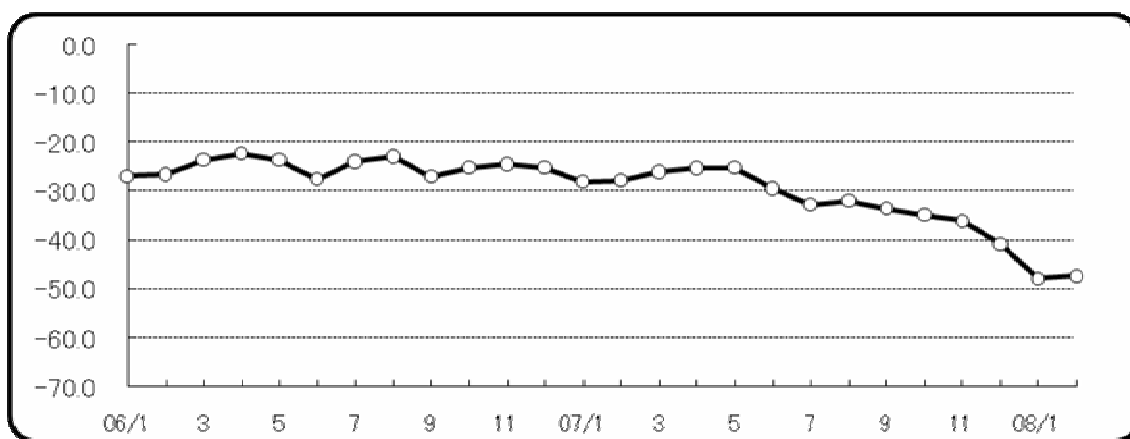
産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、約15ポイント以上の悪化となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	33.6	34.9	36.1	40.8	47.9	47.5	41.6 (20.0)
建設	45.4	47.2	46.8	57.3	58.1	57.7	54.6 (37.2)
製造	27.5	27.0	29.2	34.9	40.4	40.3	38.8 (13.9)
卸売	41.1	44.3	45.6	44.9	55.6	57.7	44.3 (25.0)
小売	33.8	33.8	36.0	39.0	49.2	49.1	43.2 (19.0)
サービス	29.1	33.0	32.6	37.1	44.5	42.7	33.2 (14.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年2月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が4.4ポイント縮小して35.4となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はサービスで拡大したものの、他の4業種では縮小した。

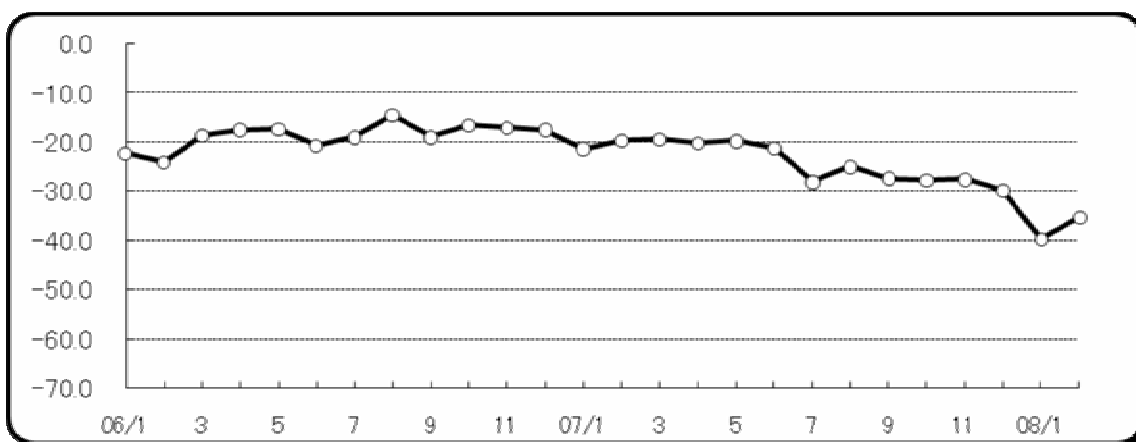
向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が28.0と、昨年同時期の先行き見通し(12.9)に比べて約15ポイントも悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が10ポイント以上拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	27.5	27.8	27.7	29.9	39.8	35.4	28.0 (12.9)
建設	37.5	39.8	45.2	51.6	55.7	51.9	48.8 (32.7)
製造	16.1	19.0	18.0	19.1	24.0	20.3	17.5 (4.6)
卸売	39.9	33.5	33.8	39.1	52.0	47.0	30.9 (16.7)
小売	30.8	29.7	26.4	29.8	43.9	35.2	29.9 (10.5)
サービス	23.8	24.7	25.8	23.7	36.6	36.9	22.8 (10.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.2ポイント縮小して44.9となり、6カ月ぶりにわずかながら縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で拡大したものの、他の業種すべてで縮小した。

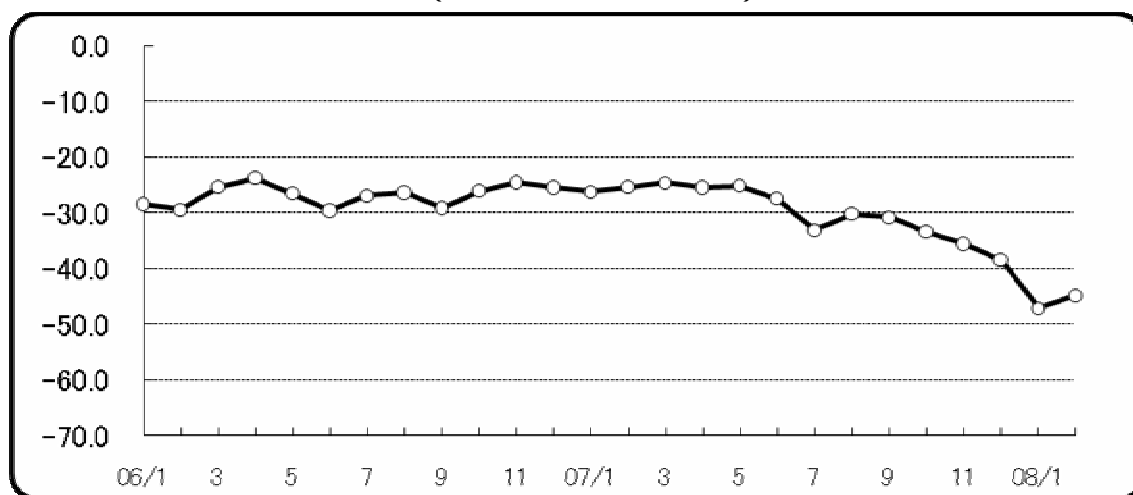
向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が38.2と、昨年同時期の先行き見通し(17.1)に比べて20ポイント以上も悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が19ポイント以上拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	30.9	33.5	35.6	38.5	47.1	44.9	38.2 (17.1)
建設	43.8	46.3	50.0	56.7	63.0	57.7	53.3 (33.9)
製造	30.7	32.8	33.7	37.0	43.8	40.3	38.7 (13.7)
卸売	29.4	33.5	36.3	40.4	43.3	53.3	38.9 (16.0)
小売	27.6	30.6	31.4	34.3	44.4	40.9	34.5 (14.5)
サービス	27.4	29.4	33.1	32.6	45.3	43.2	32.4 (13.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	19.7	21.8	22.2	24.9	28.5	31.0	28.8 (17.9)
建設	35.1	37.6	34.5	38.3	45.1	48.7	46.4 (34.2)
製造	18.3	18.0	19.4	23.3	25.1	25.0	26.4 (11.8)
卸売	15.2	19.9	23.2	24.3	24.8	27.3	27.1 (16.2)
小売	17.8	19.3	17.1	20.7	27.6	30.2	25.1 (16.5)
サービス	13.7	18.2	22.0	23.0	23.5	28.9	25.6 (15.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化が6カ月連続で強まった。産業別にみると製造ではほぼ横ばいだったものの、他の業種すべてで悪化が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	34.7	35.9	39.8	44.4	48.4	49.8	47.5 (16.3)
建設	43.6	43.7	47.4	53.1	59.0	56.3	50.6 (26.6)
製造	51.3	50.2	54.4	57.5	60.7	59.0	52.9 (26.0)
卸売	33.6	26.6	30.0	34.0	31.1	42.0	43.3 (15.9)
小売	22.3	26.2	29.9	34.1	38.7	41.7	41.9 (7.2)
サービス	27.1	31.4	35.2	41.4	46.9	48.6	48.4 (10.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は12カ月連続で仕入単価の上昇を示し、調査開始以来の最悪値を更新した。産業別にみると、建設、製造で上昇感が弱まる一方、他の3業種では強まった。特に、卸売は10ポイント以上、上昇感が強まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	0.9	0.3	0.8	2.2	4.0	4.1	3.4 ( 3.1)
建設	13.6	15.0	15.5	18.0	15.9	20.3	18.8 ( 14.3)
製造	0.5	1.7	0.0	1.0	2.2	2.2	1.5 ( 7.1)
卸売	7.2	1.3	1.9	5.1	6.6	6.0	5.4 ( 9.7)
小売	6.6	5.3	4.5	1.5	0.0	1.7	0.2 (3.0)
サービス	0.5	0.5	1.8	1.1	2.2	2.1	1.1 (3.3)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比D I】全産業合計は過剰感が4カ月連続で強まった。産業別にみると、小売で不足感が強まる一方、製造、卸売、サービスでほぼ横ばい、建設で過剰感が強まった

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で過剰感が弱まる一方、サービスで不足感が弱まり、小売では不足感から過剰感に転じ、建設で過剰感が強まる見通し。



【2008年2月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「今後も公共工事の減少が予想され、売上の悪化を懸念」(蕨・一般工事業)、「建築資材の更なる値上げが予定されるなど、今後も厳しい状況が続く見込み」(三條・建築工事業)、「4月からメーカーが原材料価格の値上げを予定しており、厳しい状況となる見込み」(西尾・鉄素形材製造業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「前年同月比の売上が25%減少。今後は更なる悪化を懸念」(銚子・その他の小売業)、「原材料価格の上昇に伴い料金の改定を検討しているが、来客数・売上の減少が見込まれ厳しい状況」(福山・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。製造からは、「原料となる大豆の高騰に対し、価格転嫁ができず採算が悪化」(水戸・食料品製造業)、「燃料が史上最高値の水準で上昇しており、今後への影響を懸念」(岡山・耐火物製造業)、「鋼材、燃料価格の大幅な値上がりにより、収益の確保は厳しい状況」(直方・鉄素形材製造業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「小麦など食料品価格上昇の影響により、売上が悪化」(苫小牧・その他の小売業)、「原油価格の高騰による消費者の先行き不安から、来客数が減少」(境港・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

中国製冷凍食品の影響

中国製冷凍餃子への毒物混入に関する報道や、消費者の不安の増加に伴う悪影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「冷凍食品の売上が大幅に減少」(会津若松・百貨店)、「中国関連の素材・製品を消費者が敬遠」(臼杵・その他の小売業)、「飲食店の国内産野菜への需要が増加し、仕入価格が上昇」(四日市・その他の小売業)といった声が寄せられている。一方、製造からは、「国内産加工食品への需要の増加により、受注が上昇傾向」(函館・水産食料品製造業)とのコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
07年12月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下
08年 1月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下
08年 2月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	中国製冷凍食品の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iはマイナス幅がほぼ横ばい、売上D Iは5カ月ぶり、採算D Iは6カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「 <u>建築確認許可通知の遅延による影響</u> で、春先以降、作業人員の不足に加え、 <u>人件費の高騰を懸念</u> 」、「 <u>公共・民間工事とも受注が減少し、厳しい状況</u> 」、「 <u>入札制度の改正が予定されており、受注の確保が一段と厳しくなる見込み</u> 」(一般工事業)、「 <u>仕入単価の高騰等により新年度の見通しがつかず、先行きの不安を感じる</u> 」(建築工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iはマイナス幅がほぼ横ばい、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは6カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「 <u>和装関連の売上の減少が続き、厳しい状況</u> 」(織物製造業)、「 <u>燃料・原材料価格の高騰により生産コストが増加し、採算の悪化が続く</u> 」(他の窯業・土石製造業)、「 <u>原油価格高騰の影響により、暖房機器の受注が減少</u> 」、「 <u>原料の金属類は海外で高く売れるため、国内での調達が困難な状況</u> 」(金属加工機械製造業)、「 <u>サブプライムローンの影響により、北米向けの輸出が減少</u> 」(自動車・附属品製造業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月連続、採算D Iは5カ月連続でマイナス幅が拡大、売上D Iは4カ月ぶりに縮小した。「 <u>小麦価格の上昇により、収益の確保が厳しい状況</u> 」、「 <u>漁獲量の減少により魚の価格が高騰し、採算が悪化</u> 」(農畜産水産物卸売業)、「 <u>建築基準法改正の影響による発注数の減少や仕入単価等の上昇により、今後への悪影響を懸念</u> 」(建築材料卸売業)、「 <u>建設業界低迷の影響により、受注が減少</u> 」(他の卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iはマイナス幅がほぼ横ばい、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは9カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「 <u>郊外の大型店との競合により、来客数・売上ともに減少</u> 」、「 <u>原材料価格の上昇に伴う販売価格の値上げにより、消費の落ち込みが厳しい状況</u> 」、「 <u>寒さが厳しく、婦人服を中心に春物衣料の売上が低迷</u> 」(百貨店)、「 <u>原油価格高騰の影響により、公共交通機関の利用が増加し、駐車場の売上が大幅に悪化</u> 」、「 <u>地域の人口減少も影響し、来客数・売上ともに減少傾向</u> 」(商店街)といった声が寄せられている。他方、寒さの影響で「 <u>防寒衣料等の衣料品が好調であった</u> 」という声も複数見られる。
サービス	業況D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「 <u>原材料価格上昇の影響により、食材・包装容器等が値上がりし、採算が悪化</u> 」(喫茶店)、「 <u>企業関係やビジネス客の宿泊が、昨年に比べて大幅に減少</u> 」、「 <u>今後、電気・ガス料金の値上げが予定されており、価格の改定を検討せざるをえない状況</u> 」(旅館)、「 <u>中国冷凍餃子問題の影響で、国産品の原材料価格が上昇。採算の悪化を懸念</u> 」(食堂・レストラン)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、東海でマイナス幅が拡大したものの、北海道、東北、近畿、九州でほぼ横ばい、関東、中国、四国で縮小した。東海については、前月比でマイナスが約8ポイントも拡大している。

なお、全ブロック合計はマイナス幅がほぼ横ばいとなった。

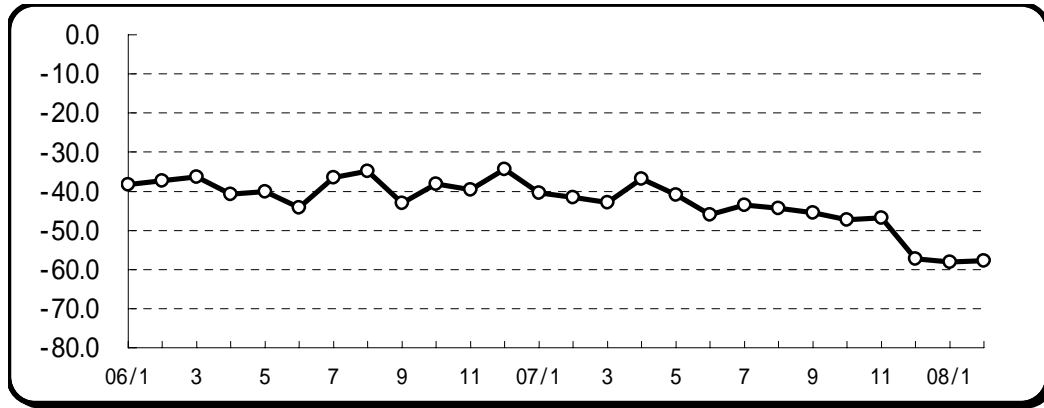
ブロック別の向こう3カ月(3月～5月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。また、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

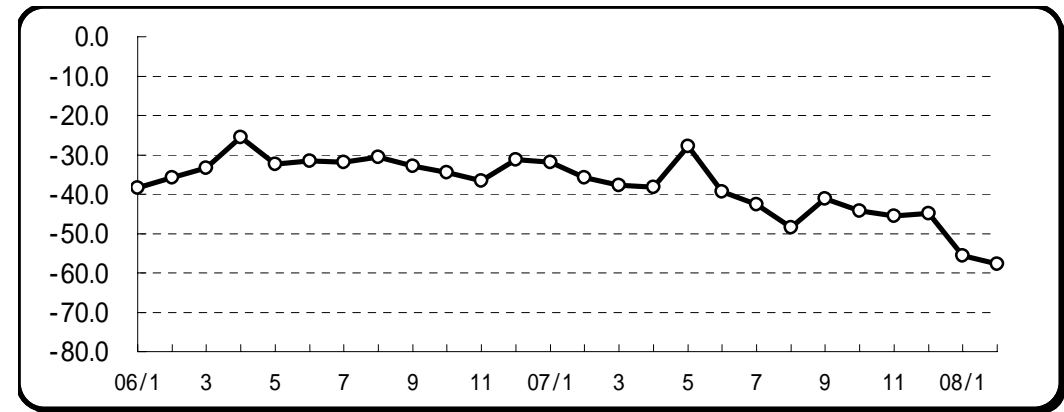
	07年 9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	33.6	34.9	36.1	40.8	47.9	47.5	41.6 ( 20.0)
北 海 道	35.5	39.8	46.5	41.7	50.4	49.5	45.8 ( 32.7)
東 北	34.8	39.0	36.8	44.7	49.3	48.6	46.2 ( 25.6)
北陸信越	34.9	31.6	35.5	40.6	48.8	50.0	35.3 ( 8.1)
関 東	30.3	31.7	29.9	39.1	44.8	43.2	37.0 ( 17.7)
東 海	32.9	33.1	32.5	37.0	40.8	48.7	47.7 ( 19.2)
近 畿	32.2	37.1	32.5	43.4	54.2	53.4	51.6 ( 23.9)
中 国	44.0	38.8	41.2	42.6	54.5	53.0	45.9 ( 24.6)
四 国	42.3	35.3	46.6	37.3	44.4	40.6	28.9 ( 23.6)
九 州	26.1	35.1	40.1	42.7	46.2	45.6	40.2 ( 14.3)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

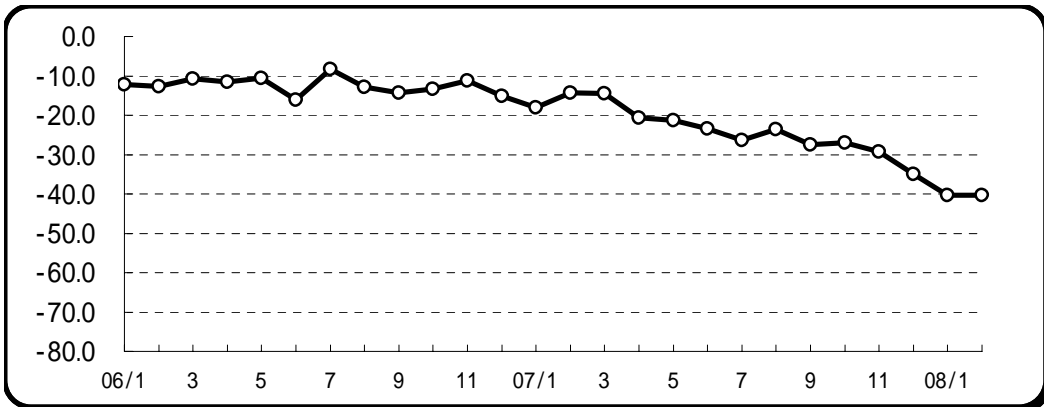
## 建設業



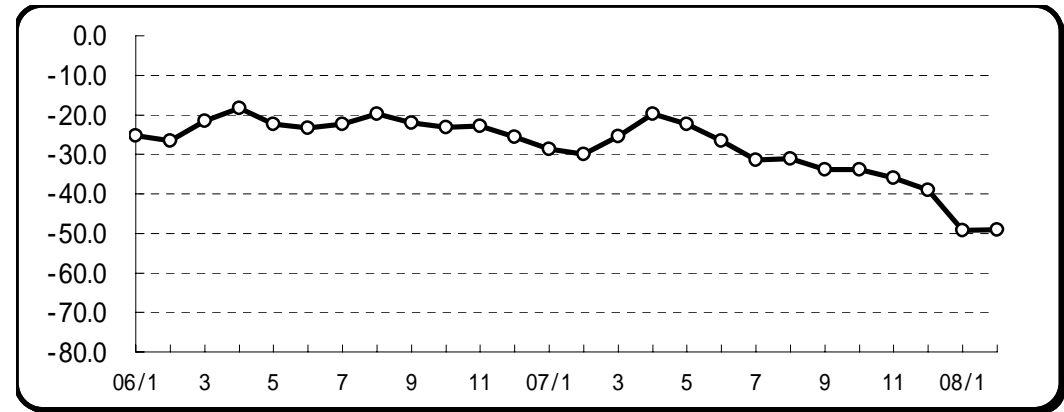
## 卸売業



## 製造業



## 小売業



## サービス業

